

# いわかげ

— No. 104 — 2004, 9, 4

広島大学文学研究科考古学研究室・  
帝釈峡遺跡群発掘調査室

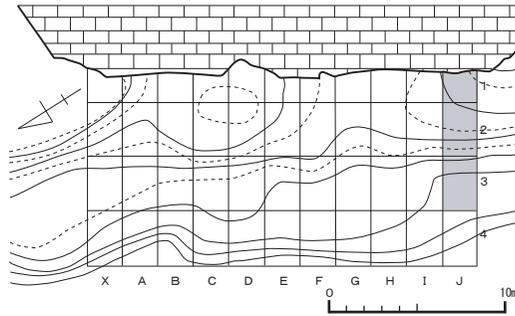


## 2004年度帝釈峡遺跡群発掘調査3期（8月27日～9月3日）の成果

### 久代東山岩陰遺跡

前号の「いわかげ」に書きましたが、2期の調査終了寸前に調査区（J2区）の西部を中心にサイズの大きい河原石がまとまって見つかりました。この河原石が見つかったのは、縄文時代以前の、人が住んでいなかったと考えられる層です。この河原石群は、石の大きさはランダムで、配置にも統一性は見出せませんでした。しかし、中にはきれいに並んでいる石もあり、人為的に敷かれたものであるという可能性は否定できませんでした。J2区という調査区内のみで人が並べた跡かどうかを判断することは困難であったため、河原石の広がりを見るため、3期ではJ2区の西側のJ3区を掘り下げて河原石の広がりを調査しました。J3区からも同様に河原石がまとまって見つかりましたが、やはり人為的かどうかを結論付けるには至りませんでした。

8月28日には本遺跡において東城町の博物館施設「時悠館」が主催をする家族発掘体験があり、実際に私達が行っている作業を体験してもらいました。J3区を掘ってもらいましたが、残念ながら



久代東山岩陰遺跡の調査区  
(網掛け部が本年度の調査区)



久代東山岩陰遺跡での家族発掘体験の様子

目立った遺物は出ませんでした。発掘に来られた方の楽しそうな顔を見て、私達も元気をもらうことができました。今年度の調査は終了しますが、来年度もお気軽に遺跡の見学、発掘体験にお越し下さい。

今年度の本遺跡の調査目標は遺跡の南限を確認するということでした。そして、1期から3期を通して、J2区・J3区を砂礫層（自然堆積層）まで掘り下げました。その結果、H区側では多かった縄文時代の層からの遺物がほとんど無いため、少なくともJ区は当時の生活の跡を残していないということになります。よって、縄文時代の生活跡はI区に南限があると考えられます。（竹村崇、唐木雄）

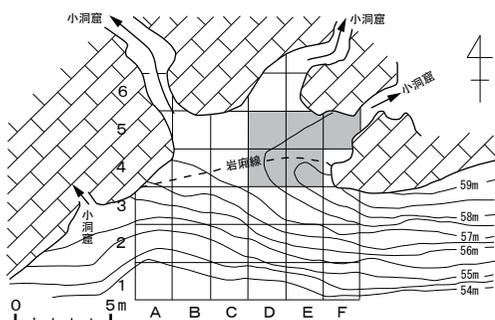
### コラム：「きれいきれいキャンペーン」

8月28日に行われた東城町観光協会による「きれいきれいキャンペーン」に広島大学帝釈峽発掘調査室からも数名参加させていただきました。ボランティアで集まった地元の皆さんと共に帝釈峽のゴミを拾い、流木をトラックに引き上げました。翌日には雄橋でコンサートがあったので、その周りを美しくするため、皆さん一生懸命作業をしておられました。私達も雄橋近くの流木の引き上げに協力させていただきました。地元地域の皆さんには、発掘について色々とお励ましの言葉を頂きました。このような交流を通して、広島大学が行っている帝釈峽の発掘調査について理解してもらえればと思います。今後も機会があれば参加させていただきたいです。

（竹村崇）

### 帝釈大風呂洞窟遺跡

3期は8月27日から始まりました。今回、2期までに出ていた炉跡の利用状況と層の重なりを調べるために、各調査区の掘り下げを行いました。D-5区では古代（奈良・平安時代）の焼土面の広がりを確認することができました。E-5区は2期に検出していた中世（鎌倉・室町時代）の炉跡の断面を確認するところまで作業が進みました。F-5区は調査区に広がる礫の位置を確認し、その広がりを調査しました。礫の位置を調査したのは、炉の周辺には比較的礫が少なく、人が生活する範囲の礫をその範囲外に捨て



帝釈大風呂洞窟遺跡の調査区

（網掛け部が本年度の調査区）

ていた可能性が考えられたからです。このように、中世での洞窟の利用方法が次第に明らかになってきました。来年度は古代・中世の層を掘りあげが完了する予定なので、当時における洞窟利用方法もおおよそ明らかにできるものと思われます。今年度の調査は、E・F-5区はまだ中世頃の層ですが、D-5区ではそれより一歩古い古代にあたる層に達していると考えられます。各調査区ともあと5～10cm程度で縄文時代の層

に達すると思われ、来年度以降は縄文時代の層の調査を行うことができそうです。

3期では、今年度の目標である縄文時代の層（3層）に達成したかったのですが、予想以上に遺物や遺構が検出されたことと、雨による1・2期の遅れや3期の台風などの影響で、当初の目標通りには進めることができませんでした。来年への課題を多く残してしまいましたが、けが無く無事に調査を終えることができて良かったです。今年も多くの方々のおかげで発掘を進めることができました。ありがとうございました。また来年以降もよろしく願います。（谷岡能史 八重樫慎之介）

### コラム「ターニーのお天気情報」

**みなさん、はじめまして。広島大学3年生の谷岡能史といます。僕は考古学を専攻する一方で気象予報士でもあります。そこで、今回は時節がら台風情報についての注意点を話したいと思います。まず、予報円の中に台風の本心が入る確率は70%ですから、たとえ自分のいる場所が予報円から外れていても油断はできません。とくに台風の進行方向の右側では、台風の移動に伴う風も加わりますので警戒が必要です。また、台風が温帯低気圧に変わっても、それは構造が変化するだけで、強風域はむしろ広くなることもあります。今後、台風の際はぜひ参考にしてみてください。（谷岡能史）**

シリア出身で現在京都大学に留学中のルブナ・オマルさんが、2期～3期（8月22日～28日）にかけて、この帝釈峡と帝釈峡遺跡群発掘調査室を訪問されました。そこで帝釈峡と帝釈峡遺跡群の発掘についての感想を書いていただきました。

#### （原文）

When I first arrived to Taishakukyo area I was stunned by the amazingly beautiful landscape, which is completely different from Syria the country where I used to live.

I have been living in Japan since last April. I am an archaeologist graduated from Damascus University, Syria.

In the past years I was engaged in many archaeological excavations especially in the northeastern part of Syria, which is one of the richest areas of archaeological sites that belongs to many different historical periods, from Paleolithic period until the end of the 17<sup>th</sup> century.

I had many duties during these excavations; such as trench supervising, pottery analysis, and animals bones study, which I was so interested in, because it's still a new field in Syria, and we still don't know much about its research techniques.

That was the main reason for me to decide to continue my postgraduate studies in zoo archaeology in Japan to get the advantage of the advanced step that



久代東山岩陰遺跡で作業中の  
ルブナさん

Japanese archaeologists has accomplished in this field.

Taishakukyo excavation was the first time for me to participate in a Japanese excavation.

I had the chance to work at two sites. Higashiyama rock shelter and Oburo cave site.

In both of these excavations I was able to get a closer look at the artifacts which has been discovered and date back to Jomon and Medieval period, and I learnt more about the systematic excavation techniques used in both sites, which help to collect as much artifacts as possible and at the same time helps to keep the finds intact for

further analysis and study.

I think I would not be able to gain all this new knowledge, without the help of the friendly team of archeologists at Taishakukyo.

I will never forget their efforts to explain to me about their recent and previous excavations in Taishakukyo area.

In the end I should mention that I was fortunate to witness the professors of Hiroshima University and their students teaching elementary school students about their excavation and the way of life during Jomon period.

I think it' s so important to make the children more interested in their history and the origin of their culture.

Thanks to the devoted archaeologists, the children learnt how to dig, and how to sieve the soil, and I think that both sides have a pleasant and good time.

I hope that I will be able to visit this part of Japan another time, because it' s such a unique and beautiful place when it comes to its nature and to the friendly people that I was so happy to get acquainted with.

Lubna Omar

### (訳文)

初めて帝釈峽を訪れて、私の暮らしていたシリアのものとは全く異なったものであり、その美しい風景に驚きました。

私は今年の4月から日本に住んでいます。私はシリアのダマスカス大学で考古学専攻を卒業しています。シリアでは東北部地域の発掘調査を多く経験してきました。この地域は考古学が対象とする遺跡が多い地域の一つで、旧石器時代から17世紀末までの遺

跡があります。その調査の間には、調査区を調べたり、土器の分析をしたり、動物の骨を研究したりしていました。動物骨の研究に私は興味をもっていますが、その研究手法はシリアではまだ新しい分野なので、まだ十分な調査技術が確立していません。このような理由で、日本の考古学者がこの分野で進めている先進的な研究方法を習得するために、日本の大学院に進学して動物考古学を学ぶことに決めました。

帝釈峡での発掘は、日本に来てから初めての発掘調査になります。今回は東山岩陰遺跡と大風呂洞窟遺跡の2遺跡を調査する機会を得ました。両遺跡の発掘では、縄文時代と中世の遺物を間近で見ることができました。それとともに、可能な限り多くの遺物を発掘により獲得し、また、より高度な調査・研究を行うための調査手法を学びました。帝釈峡発掘調査室の皆さんの協力がなければ、これらの新しい知識のすべてを得ることはできなかったことでしょう。最近の調査とこれまでの調査成果を熱心に解説していただいたことはきっと忘れることはないと思います。

最後に述べておきたいのは、広島大学の皆さんが小学生に帝釈峡の発掘や、縄文時代の生業について教える場に同席することができたことです。私はこのような活動は、子供達が地元の歴史と文化の起源に興味を持つことにつながるので大変良いことであると思います。熱心な調査室の皆さんの説明で、子供達は遺跡の掘り方や土のふるい方を学びましたが、両者が良い時間を共有できたのではないかと思います。

ここ帝釈峡は他にはない自然が存在し、皆様方に出会えるすばらしい場所なので、また別の機会に訪れたいと思います。

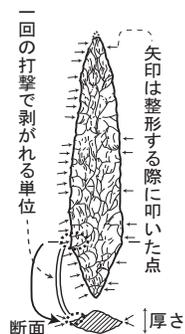
ルブナ・オマル

### 帝釈峡遺跡群の遺物あれこれ3

#### 帝釈馬渡岩陰遺跡出土の有茎尖頭器

1963年度に行われた馬渡岩陰遺跡第2次調査の際に発見されました。前号で紹介した無文土器と同じ第4層で見つかっていますので、年代は今から約12,000年前のものになります。長さが8.9cmで、先端部分は少し欠けていますが、ほぼ完全な形をしています。横断面は菱形をしていて、図の矢印で示したように、周りから細かく打欠いて表裏ともに整形をしています。

有茎尖頭器は旧石器時代の終わり頃から縄文時代の初め頃に多く見られる狩りの道具です。同じ頃の層から石の鎌(やじり)も見つかっていますので、今から12,000年前の帝釈地域に住んでいた人々はこのような道具を投槍として使い、狩猟を行って生活していたということが分かります。



人物往来

東京大学総合研究博物館 人類先史部門 佐宗亜衣子さん (8月31日～9月3日)

帝釈馬渡岩陰遺跡第4層出土の有茎尖頭器

大阪市立大学大学院生 利涉幾多郎さん (D 3 生) (8 月 29 日～9 月 3 日)

京都大学人間・環境学研究科大学院生 石丸恵利子さん (D 3 生) (8 月 27 日～9 月 3 日)

京都大学 オマル・ルブナさん (研究生) (8 月 27 日～28 日)

### 参加者名簿 (3 期 8 月 27 日～9 月 3 日)

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬清秀

〃 助教授 竹広文明

〃 助教授 野島永

〃 大学院生 加藤徹 (D 2 生)、上倉郁子・工藤心平 (以上 M 1 生)

広島大学文学部生 竹村崇・谷岡能史・唐木雄・八重樫慎之介 (以上 3 年生)、江副陽祐・  
斉藤礼・白根明樹・寺西宏展・中村匡成・山手貴生 (以上 2 年生)

岡山大学文学部生 石坂泰士 (4 年生)

### 陣中見舞いのお礼

弥生食堂さん 野菜

神石町のご婦人 フキの佃煮

庄原市 足羽秀幸さん ビール

東城町教育委員会 佐古辰巳さん 野菜

東城町時悠館 中越利夫館長 ビール

広島大学 前野弘志先生 ジュース

ありがとうございました。

本年度は8月3日～10日、19日～25日、27日～9月3日の3期間、東山・大風呂の両遺跡で発掘調査を行ってきました。多くの方々にお世話になりました。ありがとうございました。来年の調査の際には、またよろしく願いいたします。

### さいごに

今年も約一月にわたり発掘調査を行ってきました。それに伴い今号も含めて3号の「いわかげ」を作ってきたわけですが、遺跡を訪問される方々から「いわかげ」を読まれていることを聞かされました。改めて多くの方に読まれているのだなと感じるとともに、ますます気を引き締めなければならぬと思いました。いまだ改善しながらの部分もありますが、今後とも皆様に読んでいただけるようがんばっていきたいと思います。

(編集 加藤徹)

